「明るくてうちを間違えた」かと

節電効果は12～13%

きっかけは給油客の指摘

長期にわたりSSで幅を利かせてきた水銀灯だが、急速な勢いでLED照明への切り替えが進展している。水銀条約（水銀に関する水俣条約）で2020年以降の製造・輸出入が原則禁止されたのが大きいが、シナネン石油（東京都大田区）も昨年2月からLED照明への切り替えに躍起だ。その先陣を切ったシナネン石油セルヴィス下川井SS（JXTG系＝横浜市旭区）の吉田雅範マネージャーに切り替えの経緯を取材した。同氏は「LED照明への変更直後は、給油客から明るくてSSを間違えたと思ったと言われた。水銀灯の不具合から本社に稟議書をあげたが、客からの指摘のためすぐに許可が出た。12～13%の節電効果も満足」と、相好を崩す。

――シナネン石油下川井――

吉田マネージャー

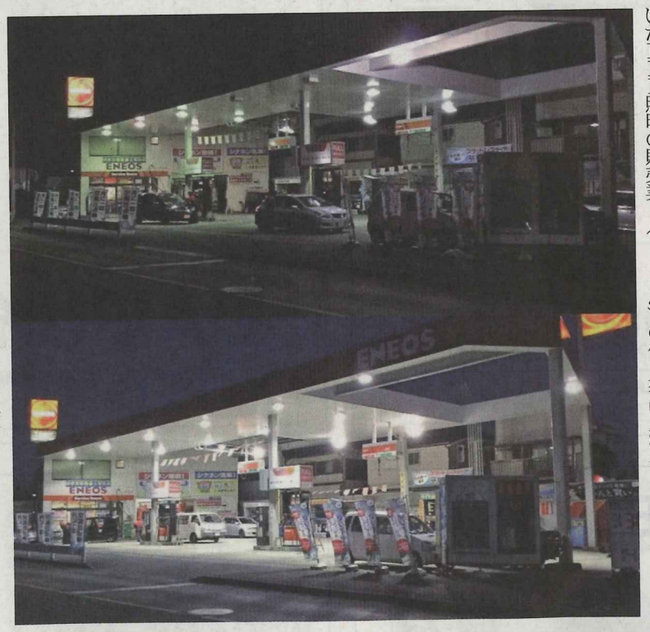
同社は、北は青森から南は静岡まで13SS（セルフSS＝10カ所、フルサービスSS＝3カ所）を展開する。

齊藤隆社長は「水銀灯が切れていたりして、給油や作業時に手元が暗くて見えにくいなどの話が出ていた。水銀灯は2020年に製造中止になるため、やがて全SSでのLED照明への切り替えを決めた」と話す。

導入したLED照明はグッドワン（大島良一社長）製だが、販売窓口は日立オートモティブシステムズメジャメントだ。

同社長がLED照明の者がいた。しかし同社長と日立メジャメントのS氏は昔、東北で長く昵懇（じっこん）の仲。製品納入するビジネスが成立した。

同社長がLED照明の品質や価格なども吟味した上で、グッドワン製品を日立メジャメントが納入するビジネスが成立した。



LED交換前（上）と交換後

同社長がLED照明の切り替えを始めた時には、すでに食い込んでいたLED照明の販売業者がいた。しかし同社長と日立メジャメントのS氏は昔、東北で長く昵懇（じっこん）の仲。製品納入するビジネスが成立した。

同社長がLED照明の品質や価格なども吟味した上で、グッドワン製品を日立メジャメントが